
【春の陽気に誘われて】

ーさん

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

【春の陽気に誘われて】

【コード】

N2745D

【作者名】

ーさん

【あらすじ】

ハヤ×泉のほのぼのです。と言っても、ハヤテは…

【春の陽気に誘われて】

【春の陽気に誘われて】

ポカポカ陽気に優しい風が流れる春の世界。

今は昼休み、この時が学院内で一番季節を感じられる時間帯だ。

周りの鳥達は、春を喜ぶように飛び周り花と共に風と流れている。

その中にはチャー坊もいて家族で凄く楽しそうだ。

そして、もう一人。

るん るん るん と軽快な足どりで軽いリズムを立てる女の子。

ニコニコスマイルを向けながら（誰に？）楽しそうに廊下を歩く。

髪を軽く結んで両側からでているピョン髪が、その少女の心に合

わせてピヨピヨと動いている…ように見える。

ふとっ、彼女は足を止めた。そして…

「暇、だ〜〜〜」

叫んだ。もうこれ以上なく叫んだ。自分の全てをさらけ出すように、おもいつっきり叫んだ。

心の中で。

…そう、瀬川泉は今、ものすつごく暇をしている。

その理由とは、例外はあるだろうが、まあ例によってはあの二人がいないからで、

「美希ちゃんも理沙ちゃんも、風邪で休みだなんてえ」

ハア〜と溜め息をつく泉。 結ばれた髪もシュンツと下にうつ

向いた。

「バカは風邪ひかないのにい〜」

おいおい！それはちょっと失礼なのでは！…まあ、ホントのこと
だけ。

「つまんないい〜」

再び叫んだ泉。もちろん心の中で。

「ハヤ太くんもないしい〜」

ハア〜と、本日二度目の溜め息をこぼす。この調子でいったら、
間違いなく自己ベストを更新するだろう（何の？）

「何かないかな〜」

そう呟きながら、泉は『楽しいモノ』を探した。

さっきまでは暗い表情をしていたのに、今ではもう『楽』の顔だ。

（この娘って、ホントに表情がコロコロ変わるなあ〜）

と、若干30歳？の窓が皆さんの言葉を代弁してくれた。

「あつ！〜！」

（えっ！なに！〜？）

と急な泉の反応に驚く窓。

泉は外に何かを見つけたのか、窓に手をあてそれを見つめる。

「あれはっ！〜！」

キュピーンと泉の目が光る。

そして、瞬く間にその『楽しいモノ』へと走っていった。

【春の陽気に誘われて】

緑が色つくその場所に少年が一人いた。

白いベンチに座り、自然のまま、この季節を感じている。

ふとっ、一条の風が周りの樹木を揺らした。それにより、一斉に踊りだす緑の子供達。

カサカサカサ、カサカサカサとみんながみんな騒ぎだす。

だが、そこにいる少年は周りの状況とは反して全く動こうとはせず、その水色の髪がなびくだけ。

そんな光景がここに存在する。それは、少年と自然との自分達のセカイ。お互いがお互いに自分達のトキを過ごす安らぎの時間。

だが、そんな彼らのセカイに侵入する者が一名。

ソレはそろりそろりと、少年の背後から近づく。

音を出して気付かれるようなへまはしない。音を殺して歩み寄る。

一歩

また一歩。

ソレが踏み出す度に少年との距離が無くなっていく。

やがて、少年の背後にまでソレはきた。

満面の笑みを浮かべるその侵入者は、自らの手を少年の両肩から前に出し、顔を覆った。いや、目を隠した。

そして…

「だ〜れだっ」

泉はハヤテに定番であるアレをした。

…

ノーリアクション！！

反応がないハヤテに泉は

「んっ？」と疑問を浮かべた。

覆った手を戻し横顔を覗き込む。

…
見ること数秒。

何かに気付いた泉は前に移動し、今度は前から覗きこんだ。

(あはっ)

見ると、ハヤテは眠っていた。

スウ、スウとした息使いで、目は瞑られており、安らかな寝顔をしている。

そんなハヤテを見た泉は、

(ハヤ太くん、寝ちゃってる)

と好奇心一杯であらゆる角度から観察した。

右から左へ、前から後ろ、とチヨコチヨコチヨコ動き回る。拳句の果てには、ハヤテのほっぺをツンツンツン。

(ハヤ太くん可っ愛いい)

と、まだまだそれをやめようとしなない。

(おい！寝てる相手を起こしちゃ可哀想だろ！)

と風がツツコンで見るものの、髪が少し揺れるだけで効果がない。そして、また更に、泉の行動がヒートアップした。

つつくはつねるは、触るは撫でるのはやりたい放題。それがとても柔らかくて、

(可愛いい)

とますます回転が上がる一方。

そんな泉は、まあ、どおーにも止つまっらない

そして、どうして持っているのか、黒ペンをポケットから取り出す。

キュポッ

という音がして、泉はそれをハヤテの顔に近づけていった。

(いったずうらっ いったずうらっ)

るん るん るん といった感じで楽しそうにと黒ペンを近づける泉。

一方のハヤテはそんな怪しい気配には気付かず、スヤスヤと眠り

【春の陽気に誘われて】

についている。

泉の目には無数の星が現れ、キラキラと輝いている。そう、それは近づくにつれより一層輝きをます。

ハヤテの顔に黒がつくまであと30cm

… 20cm

… 10cm

この辺りから、インクの匂いがハヤテの鼻につく。だが、起きる気配は全くしない。

… 5cm

もっ少しで本当にペン先が触れる。ああ、悲しいことにそのペンには白で『油性』と書かれている。

一体どんな顔になるか、それはそれで楽しみだ。

そして、

… 3

… 2

… 1

ピタッ

ハヤテの頭に一色の黒が舞い降りた。

その鮮やかな黒は着地したと同時に、広げたものを折り畳んだ。

…

泉の手が止まった。

握られたペンはそこから何も動こうとはしない。

それは、泉自身も同じことで全くの無反応。只々ハヤテを見る

ばかり。

いや、ハヤテではなく、ハヤテの頭に乗っている、その黒の…蝶を。

それはヒラヒラとやって来て、自分がペンを付けようとした矢先に、それが先に着いた。

だから、泉は瞬きも忘れその光景をずっと見た。

頭に乗った蝶はそのまま一步も動こうとはしない。

活動を止めたその羽は黒一色。と言っても、漆黒の羽とそこに描かれた、灰色つばい黒の模様で二つで一つだ。

その模様が妙に幻想的で、泉は魅とれてしまった。

いや、模様だけではない。ここにあるセカイ、全てのモノに泉は魅とれてしまったのだ。

ふとっ、視線を下に降ろした。

ハヤテの顔が視覚に入る。

(あっ)

ここで、ようやく泉はハヤテの顔を真剣に見た。

(笑ってる…)

安らかな笑みをして、無防備過ぎるハヤテの寝顔。女性のような端正な顔立ちを何一つ崩さず、『幸せ』を浮かべている。

それなのに泉は、

(なに…これ…)

何か、心に今まで感じたことのない不思議な感覚を感じた。

熱を帯ていく頬を感じながら、泉はハヤテの頬に手を触れた。

それは先ほどまでとは違う、とても優しい触り方。まるで、赤子に触れる母親のように…

「綺麗だなあ」

素直な感想を述べる泉。手にはますます優しさが溢れ、その行動はまだ続く。

泉は魅了されてしまったのだ。春の陽気を身に包み、この白いベ
ンチに眠る、春の女神に。プリムローズ

しばらくして、泉はハヤテの頬に触れる手を引っこめた。
そして、

「やっぱり、やくめたっ」

と呟き、ペンを握った手を戻してフタをした。

何故そうしたのか、それは泉自身もよくわからない。何となく感
情に流されただけなのか、何となく罪悪感を感じたのか。まあ、お
そらくは前者になるだろう。

そう、これは気まぐれなのだ。

気ままに泳ぐ曇のように、心は只々流されるだけ。

だから、

「ふあ~~~~」

(何だか眠くなって来ちゃったあ)
これも同じ。

眠気に襲われた泉は口を開け、それを隠すように手をそこにやっ
て、大きく大きく欠伸をした。

「春眠暁を覚えず……」とこの季節はよく言う。それはまさしくそ
の通りで、泉が眠たいのも、ハヤテが眠っているのも全て、今が春
だから。だから、今の眠気は心が春に流された、只、それだけのこ
と。

泉は眠たそうな目で再びハヤテを見た。

今日何度見たその寝顔についつい気が緩んでしまう。

本当にとても気持ち良さそうだ。

【春の陽気に誘われて】

(私も…寝ちゃおっ)

そう思った泉はハヤテの隣に腰を降ろした。

そして、泉は春に誘われるままに、今のこの感情に流されることにした。

春の陽気に包まれたこの昼休みに、白いベンチで、穏やかな寝顔で眠る二人の男女。

それがとても幸せそうだったので、若干30歳(?)の窓は頬を緩めながら、二階から温かくその光景を見守ったのだった。

(ふふふ)

end

【春の陽気に誘われて】

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2745d/>

【春の陽気に誘われて】

2009年3月24日09時49分発行